

■ 坂巻 ちず子 Chizuko Sakamaki

「ファールボール ある時・雨」

「ファールボール」は2015年個展写真集の形で発表し、第21回酒田市土門拳文化賞を受賞しました。ファールボールはアウトの通告は受けない。クリーンヒットを目指し来る日も来る日も練習を重ねる球児たちの思いは、学業においても社会にでてからもそのあきらめない姿勢は買われていくのではないだろうか。ここで写真集以外にある時のボールの姿を追ってみます。



第10回酒田市土門拳文化賞奨励賞では「考え悩んで」と高校野球球児に焦点をあてていましたが本賞までの10年の歳月で野球への思いは変わっていききました。心と物象へと焦点が移っていったのです。受賞写真集「ファールボール」をお手にとりご覧いただければと思います。また皆さんの心のこもった写真集も是非拝見させて頂ければと思います。

日本写真協会会員 ブログ <http://makii18w.wp.xdomain.jp/>

■ 市川 恵美 Emi Ichikawa

「Recollection・時の刻印」

歳月は万物を変化させ終焉に向かわせるか、崩壊がもたらす美しさとそこに潜む力強さは再生を予感させる。

Kindle 版電子書籍、CRP project 参加作品より。



個展  
「佐鳴湖日記」新宿ニコサロン bis21 2005  
「うらうへ」新宿ニコカミノルトラザ 2010  
「Free radical」ギャラリー・コスモス 2012  
「日目の木 (にちにちのき)」銀座ニコサロン 2015

受賞・出版  
「うらうへ」第17回酒田市土門拳文化賞受賞 2011 冬新社刊  
「Free radical」iPad用フォトアプリ  
App store: <http://goo.gl/R1qMzb>  
「日目の木 (にちにちのき)」2016  
「Recollection」(時の刻印) 2016

<http://www.amazon.co.jp/dp/b01dey3wy>  
日本写真協会会員 HP <http://www.emi-ichikawa.com/>

「贅沢な床」サイト <http://www.zeiyuka.com/>

■ 山崎 純子 Yamazaki Sumiko

埼玉県大宮生まれ  
女子美術短期大学造形科卒業  
現在同大学アート・デザイン表現学科専任講師  
個展

「イメージの表皮」ギャラリー青山  
「follage」ギャラリー表参道  
グループ展  
「贅沢な床展 3-8」アイテムフォトギャラリーシリウス  
「PHOTO+GRAPH 一光の描画」新宿パークタワー ギャラリーほか

through the material

フォトグラムによる制作。白い印画紙に描かれた黒の調子がもの組成を投影し、現実の世界と隣り合わせた世界を印画紙上に定着する。  
少ない情報の中から見えてくることは多くを語っているようだ。



■ 梅津 基世人 Umezaki Kiyoto

「Eyes」

生き物たちが見せるさまざまな表情。大型の動物だけでなく、小さな鳥にさえ表情がある。目と目が合つて一瞬感情が行き来する。そんな「視線」が、私にとっては最高のプレゼントです。

1961年神奈川県川崎市生まれ  
群馬県伊勢崎市在住  
WOODY PLANNING 代表  
HPにて Photo Gallery 公開中  
<http://www.woodyplanning.com>



■ 他出品：安部 誠

贅沢な床 9

2016.8.16-24 AIDEM Photo Gallery "sirius"

「贅沢な床」は、1991年に最初に開催されました。当時は、デジタルもなく当たり前のようにフィルムを使用していた時代で、それぞれ様々な写真表現をしていました。それらを一堂に会し、ショーケースのような展示ができたこと、始まったのがこの写真展です。  
その後、13年の時を経た2004年にふとまたきつかけで2回目を開催することができました。  
その間、カメラに大きな改革があり、フィルムからデジタルへの変貌を遂げました。そんな中でも様々な写真表現をし続けている仲間と一緒に、その後も約1年半おきくらいに開催してきました。  
メンバーは固定してはならず、その時々参加意思に委ね、自由に作品を発表できる空間を提供する形での今回9回目の開催です。

贅沢な床代表 田村博

■ 原田 裕之 Harada Hiroyuki

「贅沢な床 8 から 9 の間で・・・」

東京都生まれ。東京電機大学工学部卒業

写真展  
2013 贅沢な床 8  
2011 贅沢な床 7  
2010 贅沢な床 6  
2008 贅沢な床 5  
2007 贅沢な床 4  
2005 写真を始める



カメラライフも10年を越えました。相変わらず楽しみながら場数だけ踏んでいます。  
前回に引き続き今回6度目の出展をさせて頂きますが、その2013年の6月から7月まで3ヶ月間の撮影の一部です。これを機会に諸先輩方々のご教示が頂ければありがたいです。

e-mail [h@harachan.jp](mailto:h@harachan.jp)

■ 江水 豊 Emizu Yutaka 「コンクリートネイチャー 5」

1956年生まれ  
1979年 東京総合写真専門学校卒業  
博報堂写真部スタジオアシスタントなどを経てフリー

写真展  
1989年「コンクリートネイチャー」 フロッグ  
1990年「コンクリートネイチャー 2」 フロッグ  
1991年「タックスモメント」 フロッグ  
1994年「コンクリートネイチャー 3」 モール  
1994年「コンクリートネイチャー 4」 平永町橋ギャラリー

その他  
「東京展」1976年 上野東京都美術館  
ウロボロス、贅沢な床などグループ展多数



■ 内田 京子 Uchida Kyoko

「昭和の街の人々」は、長年filmのまま暗室に置き忘れていたモノです。平成の今だからこそ、昭和の人々を思いながらの感動の一年の暗室仕事に成りました。

学生時代、そして卒後のバイトの行き帰りは母の死後でもあり、友を求めるところをさまよっていたのだと記憶しています。  
「金物の電車のおもちゃを大事にかさず少年」が、デジタルばかりに支配された「平成」の今が失ったものを、教えてくれる気がするのです。

◆学生時代からほぼ20年、「self-Portrait」がライフワークとなった。  
2013年 写真集「Dark Light」(self-portrait) を出版。  
2014年「Dark Light」が第26回「写真の会」賞を、授賞。  
2015年 France Arles Photo Festivalにて、フランス国立図書館から「Dark Light」の写真購入の話もあり、実現する。森山大道、田原敬一郎、東松照明の後に、女性に加わった、「wonderful」& キュウレーターからe-mailを頂きました。2018年フランス国立図書館 (Bibliothèque nationale de France) で企画展に出品されます。  
◆中学、高校時代から「美術」を学ぶ。桑沢デザイン研究所、東京総合写真専門学校(本科、研究科)卒業。

■ 中島 健 Nakajima Ken

「猫バコ」

昨年秋、手乗りでやって来た新息子の黒猫バコ。猫寿命を20年として自分の20年後の年齢を鑑みると、猫と飼い主の生き比べになりそう。

1958年 東京大森生まれ  
佛教大学文学部卒、日本写真学会専攻科修了  
<http://www.accitano.com/> info@accitano.com  
写真集「MY COMPANY」vol.1-3、  
「曇天台北」、「イベリアの月」、「台北発東京」、「4回目のパステル」、「リンリンワールド」、「ロペルル」、「Time To Time」vol.4-10  
写真集「MY COMPANY」、「Time To Time」vol.1-10



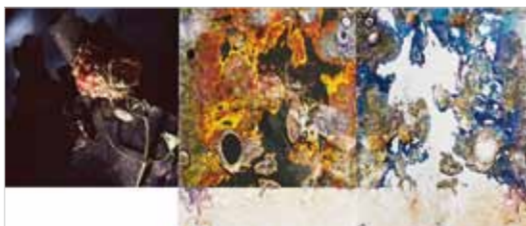
■ 大塚 勉 Otsuka Tsutomu

「デカルコマニーフォト」

デカルコマニーは現代美術でオートマティスムの絵画技法の一つで紙に絵の具を塗りそれお二つに折るか、別の紙を押し付けるかして写しとる画法で偶然の効果を生み出した手法です。  
この作品は、カラープリントした花の写真を2週間屋外に放置し、Cプリントに塗布されたカラー乳剤を別の印画紙に転写した作品で、カラープリントされた写真の色と、溶解したカラー乳剤の色が混じり合った作品です。

1987年「Incognito II・花片の翳り」新宿ニコサロン  
1989年「Incognito III・水の種子」シブヤ西武美術画廊  
1992年「地の刻」 INAX ギャラリー  
1996年「TRANS - BODY」HOKARI Fine Art Gallery  
1998年「水と空と地の間で」(フランスにおける日本)

GALERIE VRAIS REVE (リヨン)  
「ラヴズ・ボディ」モード写真の近現代 東京都写真美術館  
2002年「部屋」ギャラリー・テコ  
2007年「SILENT」Space Kobo&Tomo  
2013年「タイベックスーツ 記憶のすみか」 place M  
2014年「HALF LIFE(半減期)」Gallery Photo synthesis  
2015年「断られた地」 Gallery Photo synthesis  
パブリック・コレクション パリ国立図書館



■ ハーレー清水 Harley Shimizu

「メコンデルタの微笑み 2016」

ベトナムはブータンに次ぐ世界第2位の幸せ感度の国。メコンデルタの自然の中で暮らす人たちのピュアな微笑みです。ベトナムの人たちから見て好感度1位の国は、日本だそうです。

[shimizu432@ams.odn.ne.jp](mailto:shimizu432@ams.odn.ne.jp)



■ 柴田 秀一郎 Shibata Shuichiro

「盛岡バスセンター昭和の名残の風景」

岩手県の盛岡バスセンターは、自動車ターミナル法の適用第一号施設として、昭和35年に完成した施設である。ご存じのように岩手県は北海道を除いて最も面積が広い県なのに鉄道の発着が少ないので、バスはもっとも身近な乗り物である。またこのバスセンターは、どこに行くにも起点になるので、県民にとって懐かしい場所である。建物の老朽化が著しいので、壊すことが決定して2016年9月末日までの営業期間となった。  
センター内は、売店、喫茶店、時計屋、飲食店など、昭和を感じられる場所であり、この喫茶店で見知らぬ人たちの会話も盛んに行われたと思われる。そんな昭和の光景を感じてもらえたら、幸いである。

1963年生まれ  
東京・杉並区出身。日本大学法学部卒業。現代写真研究所・竹内敏信ゼミを経て竹内敏信に師事。公益社団法人・日本写真協会 (PSJ) 会員・日本旅のペンクラブ会員・「3.11を忘れない写真家の会」実行委員  
2005年「標(しるべ)〜バス停にて〜」により、第11回酒田市土門拳文化賞・奨励賞受賞。  
2006年『日本カメラ』にて、写真と文章を1年間連載。  
2010年『バス停留所』をリトルモアから出版。  
2015年から、講談社『バスマガジン』にて『バス停のある風景』連載中  
個展・グループ展多数  
作品収蔵 土門拳記念館  
<http://syashinkas.com/>



■ 山崎 弘義 Yamazaki Hiroyoshi

「Around LAKE TOWN」

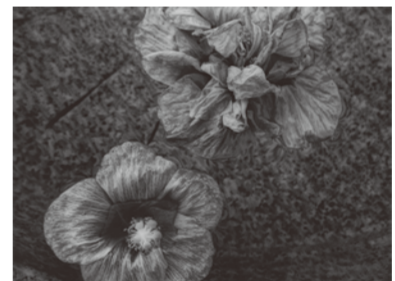
埼玉県越谷市のレイクタウン地区は、20年前まで一面の田んぼだった。今や大型ショッピングセンター、マンション、住宅が立ち並びニュータウンとなってしまった。昔の姿を知る人は想像してできなかったら。これから、レイクタウンがどう変貌していくか興味が残る。

1956年埼玉県生まれ、1987年東京写真専門学校報道写真科II部卒。90年代に東京のストリートスナップを撮影し、個展・雑誌で発表。  
2015年『DIARY 母と庭の肖像』出版。  
日本写真芸術専門学校非常勤講師。  
日本写真協会会員。



■ 鈴木 さやか Suzuki Sayaka

2011年写真を撮り始める  
写真発表グループ (Re:SPAISE+) に参加



■ 田村 博 Tamura Hiroshi 「雑景」

1961年東京生まれ  
1983年東京総合写真専門学校卒業  
個展「雑景」他多数  
[hirositamurac@ybb.ne.jp](mailto:hirositamurac@ybb.ne.jp)

「雑景」というタイトルでずっと写真を撮り続けています。雑踏の景色とか雑踏の風景という言葉が略した造語です。面白い人がいる場所にわざわざ行くわけではなく、ありのままの日常をなんとなく切り取っているつもりです。そんなかんじで、今回もいろいろあるので撮りました。



■ すずき隆行 Suzuki Takayuki

1953年浜松市浜北区生まれ  
1995年アサヒカメラ月例コンテストモノクロームの部年度賞1位  
以降個展開催活動開始  
2013年台湾台中市にて個展「幻景回廊」を開催  
現在まで20回個展を開催

